

令和2年3月

保護者様  
関係各位

みどりの学び舎  
世田谷区立緑丘中学校  
校長 楠美 利文

## 令和元年度学校自己評価報告書

### 1 本校の目標及び方針等

#### (1) 教育目標

- ・ 学ぶ意欲を育てる「自ら進んで学ぼう」
- ・ 優れた社会性、奉仕の精神を育てる「みんなのために働こう」
- ・ 人間愛に充ちた心を育てる「豊かな心を育てよう」

#### (2) 教育目標を達成するための基本方針

- ・ 全ての教育活動を通して人権尊重の精神を培うとともに、他の人を思いやる態度を育て、豊かな人間性を備えた人格の完成に努める。
- ・ 生涯学習の視点に立ち、基礎学力を身に付けさせるとともに、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対して求められる資質・能力の育成のために、あらゆる教育活動、教科等横断的な学習を充実させて、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、思考力、判断力、表現力など豊かな知力をあらゆる教育活動を通して育成する。
- ・ 豊かな情操をはぐくむ文化的行事及び体力の向上、心身の健康の保持増進を図る体育的行事へ意欲的に生徒を参加させ、健やかな身体をつくるとともに、行事の運営に主体的に参加させることで自主性・創造性の育成を図る。生徒会スローガンの「一生懸命がかっこいい！」をさらに充実させ、所居意識を高めていく。
- ・ 地域とともに子どもを育てる教育を推進するため、学校協議会における情報発信を充実させ、家庭、地域との連携を深める。また、生徒の地域行事・地域ボランティア活動への積極的な参加を促し、郷土を愛する心と自己肯定感を育成する。生徒会のスローガンである「地域の方々との交流を深めよう」を実現する。
- ・ いじめ、不登校生徒の教育課題に対応し、生徒一人一人の健全育成を推進するために、豊かな人間関係を育む指導を徹底するとともに、教育相談機能を整備し、教育相談の充実を図る。
- ・ 特別な支援を必要とする生徒に対する教育課題を明確にし、個に応じた指導計画に基づいた指導を推進する。
- ・ 生徒が自らの個性を理解し、たくましく生きる力を培うことができるようキャリア教育の視点から適切な支援を行い、生涯学び続けていく態度や進路選択能力の育成に努める。
- ・ 世田谷マネジメントスタンダードに基づき、職員一人ひとりの学校運営への参画意識を高めるとともに、学習指導要領及び世田谷区教育要領について理解を深め、指導の工夫・改善に努める
- ・ 生徒一人ひとりが安全に安心して学校生活を送れるようにするために、教職員全員で事故防止の徹底に留意しながら教育環境の点検・整備を行う。
- ・ 日本の文化・伝統を継承するとともに、広く世界に目を向け、国際社会の平和と発展に貢献できる、国際的な視野をもった生徒の育成に努める。
- ・ 教科等横断的な視点に立ち、教科「日本語」をはじめ全教科を通して、生徒のことばの力の育成の充実を図るとともに、教職員自らが美しい日本語を意識し、生徒と教職員の信頼関係が保てる言語活動ができるように努める。教科「日本語」の地域公開講座を実施し、意見交換を行って教職員の授業力向上に生かすとともに、子

子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力とは何かを共有し、地域社会との連携を図る。

### (3) 学校評価を踏まえた重点目標

#### ①学習習慣の定着と基礎学力の充実を図るため、学習指導の充実を図る。

「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫し、分かりやすい授業をする。」と感じる生徒の割合が、85%を超える評価になることを目指す。

#### ②特別活動の中の学校行事（体育大会・学芸発表会・合唱コンクール）の取り組みを充実させる。

生徒の自主性を育てる生徒の主體的な取り組みを推進し、「行事では、みんなが活躍するチャンスがある。」と感じる生徒の割合が、全体の80%以上になることを目指す。

#### ③子どもの社会性を育てるため、地域社会との連携を深め、地域とともに子どもを育てる教育を推進する。

地域行事やボランティア活動に、生徒が自主的に参加できる環境を整え、「学校は地域の行事や活動に協力的である。」と感じる保護者、地域の方が80%以上になることを目指す。

## 2 学校の概要

### (1) 校長名 楠美 利文

### (2) 学級数第1学年4学級、第2学年3学級、第3学年4学級、計11学級

### (3) 生徒数 第1学年111人、第2学年116人、第3学年134人、計361人(令和2年2月20日付)

### (4) ホームページアドレスURL : <http://school.setagaya.ed.jp/tmika/>

### (5) 特色ある教育活動

①教科等では、(ア)英語科・数学科の少人数指導 (イ)技術科・家庭科・音楽のTT授業 (ウ)数学科の大学生ボランティアを活用した指導 (エ)教師による放課後と夏期休業中の補習 (カ)放課後の図書館での学生ボランティアによる補習学習

②新聞を活用した教育活動の推進。(東京都NIE実践校6年目)

③体験的な学習活動の推進。

④特別活動(体育大会、学芸発表会、合唱コンクール)を通じた意欲的に取り組む生徒の育成。

⑤地区委員会(三地域)と連携し、推進する生徒のボランティア活動、地域行事。

⑥生徒、教職員、保護者、地域とともに行う「緑のカーテン」等、各種環境エコに対する取組。

⑦地域の外部指導員による伝統文化(箏、和太鼓、茶道、日本舞踊)の学習。

⑧地域と連携し、認知症サポーター養成講座、車イス・アイマスク体験、避難所訓練への生徒の参加などの取組。

⑨地域運営学校として、保護者・地域の方の学校運営への参画を推進し、保護者や地域の方の声を反映する学校運営を進める。

⑩「世田谷9年教育」を推進し、小中の教員が交流をもち、連携を深める。

## 3 学校評価を踏まえた重点目標の評価及び数値目標の達成状況

### (1) 重点目標

重点目標に関わる項目の「関係者等アンケート」における肯定的評価は、保護者が60%(13ポイント減)、地域が81%(10ポイント減)である。しかし、「分からない」という回答が保護者21%の割合を示したことから、学校公開、保護者会、学校だよりやホームページで共有し、今後も「分からない」という回答が減少するように、理解を深めていただく手立てをしていく。

## (2) 数値目標

### ①学習習慣の定着と基礎学力の充実を図るため、学習指導の工夫と充実を図る。

「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫し、分かりやすい授業をする」と感じる生徒の割合が85%以上にする。

「関係者等アンケート」における生徒の肯定的評価は、1年生は89%（6ポイント増）、2年生は78%（6ポイント増）3年生は78%（9ポイント減）、全体で82%（1ポイント増減）であった。また、「授業の内容はよくわかる。」については、1年生81%（3ポイント減）、2年生80%（9ポイント増）、3年生78%（7ポイント減）、全体79%（1ポイント減）であった。生徒に興味・関心をもたせる授業改善に向けたICTの活用や環境整備、教科研修を充実させる。そして、生徒一人一人の学びの充実を目指し、主体的、対話的で深い学びの指導に更なる工夫・改善に取り組む。

### ②生徒の自主性を育てる生徒の主体的な取り組みを推進し、「行事では、みんなが活躍するチャンスがある」と感じる生徒の割合を80%以上にする。

「関係者等アンケート」における生徒の肯定的評価は1年生は82%（5ポイント増）、2年生は79%（2ポイント減）、3年生は80%（1ポイント増）、保護者は71%（6ポイント減）であった。三大事業や学年・学校行事に、生徒が主体的に活動する場面の設定や指導の工夫に継続して取り組み、生徒の自主性を高め、意欲的な姿勢を伸長するための指導の充実を図る。

### ③子どもの社会性を育てるため、地域社会との連携を強め、地域とともに子どもを育てる教育を推進する。生徒が、地域行事やボランティア活動に自主的に参加できる環境をつくり、「学校は、地域の活動や行事によく協力している」と感じる保護者、地域の方を80%以上にする。

「関係者等アンケート」における肯定的評価は、地域95%（1ポイント増）、保護者66%（7ポイント減）であった。また、「地域の方々と一緒に住みやすい街づくりに取り組もう」という新しいスローガンを生徒会から発信したことで、環境づくりを一層推進し、生徒が地域の行事やボランティア活動に自主的に参加している。

## 4 地域との連携・協働による教育の評価

### (1) 保護者・地域連携等

青少年地区委員会の行事や地域行事、本校で行われる避難所訓練の運営スタッフとして、68名の生徒参加があり、地域の方々に学校への理解を深めていただくことができた。しかし、「関係者等アンケート」における肯定的評価は、地域57%、保護者55%の結果から、学校運営委員会、学校協議会、合同学校協議会に関する情報提供を課題ととらえ、各種たよりやホームページの活用の推進を含めた広報に関わる工夫に取り組む。

## 5 「世田谷9年教育」で実現する質の高い教育活動の推進の評価

### (1) 学習指導

「関係者等アンケート」における生徒の肯定的評価は、昨年に引き続き、肯定的評価が80%前後と評価されている。校内及び学舎における指導力向上のための研修の実施や基礎的基本的な内容の定着や個に応じた指導などの充実に努めた。また、教師用タブレットや各教室に設置されている大型テレビやインターネット環境を活用したICT教育の成果があった。今後も生徒理解に基づいた学習指導を推進し、研修を活用して指導の工夫と改善に継続して取り組む。

### (2) 生活指導

「関係者等アンケート」における生徒の肯定的評価は、平均で85%である。また、「先生は誰に対しても公平である」の肯定的評価は、77%（18ポイント増）。これは、生徒理解を基盤とし、共通理解に基づいた指導に

努め、生徒の自律的な行動を育み、落ち着いた学習環境を整えることに努めた。さらに、共通理解に基づいた組織的な指導を通して、生徒会活動の活性化や年2回の相談体制の充実に向けた校内体制づくりを推進する。

### (3) 道徳

年間計画及び「人格の完成をめざして」の取組に沿って実施した。生徒の道徳的心情・判断力・実践力を高めるために、全教育活動を通じた指導の充実や、地区道徳公開講座での講師を迎えての講演や意見交換を通して、家庭・地域との連携を進めながら、道徳教育の推進を図る。

### (4) 進路指導・キャリア教育

「関係者等アンケート」の結果において、学年が進むにつれて肯定的評価が増加する傾向に変化はなかったが、肯定的評価の平均では、生徒2ポイント増、保護者3ポイント減であった。また、昨年度から年度当初の保護者会において進路指導・キャリア教育に関する説明を実施した。更にネット環境での入試制度などに対応するべく、資料の充実や説明の機会を適切に設定する。また、進路説明会への1・2学年の保護者の出席率を高め、3年計画で進路指導・キャリア教育への理解を深めていく。

### (5) 特別支援教育

特別支援教育コーディネーターを核として学校包括支援員・区費講師を活用した個に応じた教育支援をきめ細やかに実践することができた。また、スクールカウンセラーや関係機関と毎週実施する校内支援委員会の連携が機能して、家庭や一人一人への支援方法や対応策を検討し、迅速に対応して実践することができた。

さらに、校内の支援体制の強化や研修の充実、関係機関との連携を図りながら、教育ニーズに応じた支援の充実をめざす。

## 6 信頼と誇りのもてる学校づくり

「関係者等アンケート」の保護者の結果から、保護者の学校運営に関する肯定的評価は55%（8ポイント減）である。また、学校の広報活動や情報提供に関する項目の肯定的評価の平均は65%（9ポイント減）である。ホームページの充実を含め、広報活動と情報発信に適切に行うことに今後も努めたい。

## 7 安全安心と学びを充実する教育環境の整備

学校に分割された予算による修繕、また学校主事による施設・環境の改善に努めている。より安全で安心な教育環境を整備するために、日常の安全点検をはじめ、区教委とともに施設・設備の充実に取り組んでいく。